

# Cam paign Lady

キャンペーンレディの  
長島魅力発信

Vol.06



長島町のキャンペーンレディ・二階堂美慧  
さんが町の景色や特産品、知られざる  
魅力を紹介します。

## 町民の象徴「スイセン」

スイセンは平成18年10月1日に長島町の町花に制定され、町内のあちらこちらに自生しています。

町では、見頃に併せて毎年1月に「すいせんウォーク」を開催していましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。交流人口の増加や長島の魅力PRを目的として、平成15年に第1回健康づくりとして始まったすいせんウォークは、今まで町内外からたくさんの方が参加。青い東シナ海を望みスイセンを愛でながら歩

く同イベントは毎年参加するリピーターのかたもいます。

残念ながら中止となったものの、スイセンが咲いている沿道を自分の足で歩き、香りなどを楽しみながらすいせんウォークの気分を味わうのも良いのかなと思いました。

スイセンの名前の由来は、水辺に育ち仙人のように寿命が長く、清らかなという意味から名づけられたとされています。私もスイセンのように、茎がまっすぐ伸び、その先には愛らしい花を



汐見川河川敷で見頃を迎えたスイセン

付けるように、これから成長していけたらと思います。

## カラフルな貝「ヒオウギガイ」

1月にかけて出荷最盛期を迎えました。

今回は町の特産品を知るために、錦盛丸水産(葛輪)でヒオウギガイの磨き体験などをさせていただきました。作業は専用の機械で行っていました。くるくる回る部分にたわしのようなブラシが付いたグラインダーに貝の表面を軽く当てて海藻やフジツボを取り除く作業です。

初めてだったので、グラインダーに手

を巻き込まれないか少し心配しましたが、代表の水永一朗さんに教えていただきながらゆっくり貝を削っていききました。貝の表面に鮮やかな色が浮かび見栄えが良くなるとうれしくなりました。

水永さんは、「コロナ禍でも毎年購入してくださるお客さんには感謝している」とほっこりした笑顔で話され、特産品に自信を持って販売している誇りが感じられました。



鮮やかな色をしたヒオウギガイ

赤や黄色、紫などパッと目を引く貝殻。町内では、ヒオウギガイが12月から



地域おこし協力隊  
制作：江副 佑輔

野良の仔猫を保護し、3か月をかけて無事に里親へ譲渡しました。救った命は、多忙の私にとってはむしろ、救い癒される存在でした。町内の野良猫の間では、感染症が流行していると動物病院で知りました。野良猫が多い町の課題に、応えたいです。



企画財政課  
広報統計係  
担当：田上 徹

節分の取材で風の杜ことも園に行つたときのこと。鬼退治する勇姿を収めようとカメラを構えて待っていました。散り散りに逃げ回る子どもたち。年甲斐もなく子どもたちと鬼を必死に追いかけていると、晴れ晴れとした気分。邪気が払われました。

編  
集  
後  
記

